

目指す学校像	歴史と伝統を継承し、生徒一人ひとりが、「夢と希望」「自信と誇り」をもてる教育を推進する学校
--------	---

重点目標	1 ICTを活用した授業の改善とわかる授業の実践を踏まえた学力の向上 2 生徒指導、教育相談の充実と施設・設備の点検、修繕による安心・安全な学校生活の確保 3 コミュニティ・スクールとして、地域、保護者から信頼される学校づくりの推進 4 教職員一人ひとりの資質向上と教職員事故を未然に防ぐ取組の実践
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価																																											
年度目標							実施日令和6年2月14日																																											
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等																																										
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、数学が市平均を上回り、国語、理科が市平均と同じである。 ○市の学習状況調査において、思考・判断・表現に関する評価の観点、国語が70.1%、数学が57.3%と市平均(国語71.5%、数学58.4%)と比べやや低い正答率である。 ○ICTを活用した学習には、意欲的に取り組む生徒が多く、授業中も自信をもって発表できる生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の「読むこと」の力に若干弱さが見られる。 ○生徒アンケートの結果より、家庭学習の習慣化に課題が見られる。	・ICTを活用した個別最適協働的な学習に向けた授業の改善	①スタディサプリを活用することにより、授業だけでなく、家庭においても、個々の理解度に応じた内容を学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査において、生徒が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。	①全教科(5科目)で、授業や家庭学習におけるスタディサプリの活用を個々の理解度に応じ、定期的、継続的に行うことができたか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況を把握し、次への目標を立て、その達成に向けて学習できるようになったか。	①11・12月の月別使用率において、市平均値を上回ったものの9・10月は市平均を下回った。学年別に見ると12月の使用率は、1年生は87%、2年生は半分程度、3年生は半数以下となった。 ②全国学力・学習状況調査終了後、速やかに自己採点を実施し、生徒自らが課題を把握することができるようにした。	B	①学年別、教科別にとらえらるとばらつきが生じている。また、確認テストを宿題として一斉配信しているため生徒一人ひとりの理解度に応じた活用が求められる。 ②課題の把握と授業においてフォローアップはできたが、習慣化するまでには至っていない。今後継続的に実施することが必要である。	ICTの活用については、小学校から継続的に行われており、生徒も慣れてきている面では、とても良いと感じた。しかし、現在の生徒達には、「読むこと」が弱いと感じられる。その部分はICTの活用の負の部分かもしれない。具体的な活用方法等を中学校だけでなく、小学校、高校とも共有、参考にしながら進めていく方が良いと感じた。授業が分りやすいと感じている生徒が約90%いるので、生徒に寄り添った指導がされていると素晴らしい。																																										
		・わかる授業の実践を踏まえた学力の向上	①「学びの指標」や「よい授業」のアンケート結果をもとに、教職員が授業の改善に向け積極的に取り組む。 ②授業におけるICT機器の活用状況を把握するとともに、校内研修や各教科会において効果的なICT機器の活用について研究を進める。	①年に複数回のアンケートを実施し、各項目について個々の教職員の授業改善が見られたか。 ②定期的なICT機器を活用した授業を公開するとともに、その活用方法について研究協議が行えたか。	①「よい授業」のアンケートでは、全因子において因子①以外は、市の平均値を上回ることができた。(因子①17.3、因子②17.4、因子③17.3、因子④16.9) ②同アンケートの設問3において、市の平均値を0.7ポイント上回っていることから、ICT機器を活用した授業を実施することはできた。(設問3:3.6)	B	①年代別、教科別で見るとばらつきが生じている。今後は、学びの指標にて状況把握と課題発見に努めていく。 ②ICTの活用率については平均値を上回っているものの教育的DX化に向けて今後さらにスキルアップ研修及び活用法についての研究協議が必要である。		2	(現状) ○市の学習状況調査で、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、90.2%と市平均(91.7%)を若干下回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合が原因と考えられる生徒のけがは11件、授業中や休み時間におけるけがは250件発生し、医療機関を受診したものは37件で、救急搬送は1件であった。 (課題) ○新型コロナウイルスによる影響もあり、昨年度の不登校生徒数は40人であった。生徒が安心して登校できる環境づくりが必要である。 ○教職員による毎月の安全点検は適切に行われているが、施設・設備の老朽化もあり、市教委との連携、予算の適切な運用により、常に安全な教育環境を整える。	・積極的な生徒指導による生徒一人ひとりへの適切な指導が行える校内体制の充実	①生徒指導委員会及び教育相談部会をそれぞれ毎週1回開催し、生徒指導上の課題や配慮すべき生徒についての情報共有を行う。また、その対応策を検討し、適宜対策を実施する。 ②心と生活のアンケートを実施し、各学年からの報告を受け、全校生徒一人ひとりの心と生活の状況を把握し、今後の指導方針について専門家からの意見も参考にしながら検討する。	①各種委員会の定期的な開催ができた。また、生徒指導上の課題を適切に処理し解消し解けることができた。さらに、不登校生徒数を減少させる努力が効果的になされたか。 ②心と生活のアンケートにおいて、要面談生徒の数が、前回と比較し減少しているか。また、設問3やいじめに係る間に回答する生徒数が減少したか。	①各種委員会の定期的な開催により、生徒指導上の課題も適切に処理し解消することができた。(いじめ認知件数7、解消件数5) また、不登校生徒を減少させるための具体的な方策(別室対応:SoLaルーム、放課後登校対応、オンライン授業対応)をとることができた。 ②要面談生徒数、設問3やいじめに係る間に回答する生徒数は減少した。(要面談生徒1回目より2回目は16名1.1%減少、設問3は5名0.4%減少、いじめに係る回答は5名0.4%減少) また個々のケースに応じた適切な対応をすることもできた。	B	①教育相談に関する課題に対して組織的な対応が必要不可欠であるため、教育相談部会を中心に個々のケースの具体的な対応策を検討することが求められる。 ②減少したものの全生徒の12%は要面談生徒であるため、迅速かつ適切に対応していくとともに生徒一人ひとりに寄り添う指導を行うため面談時間の確保が重要である。	一人の優秀な子を輩出するよりも一人でも多くの苦しんでいる子を救うためにも、今以上に生徒、保護者とコミュニケーションを取りながら積極的な生徒指導を進めてもらいたい。生徒指導、教育相談共通的に行われていると感じた。それも、生徒と教職員の関係が良いからだと感じた。安心、安全な学校生活としては十分だと思います。しかし、施設、設備等の老朽化があり、今以上に子どもたちが安心、安全な環境で生活できるように市に要望していく必要があると感じた。	・施設・設備の修繕等による安全な教育環境の確保	①校内におけるけがの発生場所や原因について分析し、再発防止に向け予防策を講じる。 ②教職員だけでなく、生徒にも安全についての意識を高めるため、授業や委員会活動を活用する。	①安全担当が中心となり、管理職や事務職も加わり、施設・設備の状況把握をし、適切な予算運用のもと修繕が行われたか。 ②安心安全な学校生活のために、生徒も参加した活動が実施されたか。	①施設・設備の状況を把握し、適切な予算運用のもと修繕することができた。管理職、事務職が市教委と連携を図り修繕が終了した箇所は5件となった。 ②保護者・地域とともに活動する清掃活動へ積極的に生徒を参加させることができた。(保護者100名、生徒270名)	B	①安全点検で挙がる軽微なものについては、安全担当が中心となり積極的に修繕を行っていく必要がある。 ②①同様に安全担当が中心となって生徒自らが安心安全な学校生活を築き上げていく活動を実施していく。	3	(現状) ○学校運営協議会において、コミュニティ・スクールの目標を「地域に愛される子どもの育成」とし、それを柱に地域全体で協力していくことを確認、実行しているところである。 ○学校だよりや学校ホームページを活用し、本校の教育方針や教育活動の様子を地域、保護者に周知するよう努めている。 (課題) ○コミュニティ・スクールについて、改めて地域、保護者にその目的や内容を周知し、理解と協力を求める。 ○「地域に愛される生徒の育成」というコミュニティ・スクールの目標を地域、保護者にも浸透させ、それぞれの立場で何ができるか共通認識を持って考え、実行する。	・目指す生徒像を地域、保護者に浸透させることによる協力支援体制の充実	①ホームページを活用し、学校運営協議会の情報や夢チャレンジスクール宮原をはじめとするSSN(スクールサポートネットワーク)についての内容を発信することにより、目指す生徒像を地域に周知する。 ②目指す生徒像にある「あいさつ」について、保護者、地域に協力を得て、「あいさつ運動期間」を継続する。	①学期に1回以上、ホームページの改訂を行い、学校に係る情報提供を行うことができた。また、保護者アンケートの「教育方針をわかりやすく伝えていく」について、肯定的意見が90%を上回ったか。 ②「あいさつ運動期間」を適切に設けることができたか。	①毎学期1回以上、ホームページの改訂を行った。教育方針については、必要に応じて適宜、安心メールを発信したり、学校だよりに毎月載せたりしたが、保護者アンケートにおいて肯定的な評価が90%に達することができなかった。(84%) ②「あいさつ運動」では、地域・保護者の協力の下、各学期に3日間ずつ、実施することができた。生徒参加は、計24名と増加した。	B	①ホームページのフォーマットが市で統一されたことを受け、掲載する内容を今後さらに工夫改善していく必要がある。エバンジェリストを中心に計画的に取り組んでいく。 ②回数、日程等を含め、参加者(保護者以外に教職員、地域の方、生徒の参加)等、実施の形を学校運営協議会で検討していく必要がある。	「地域に愛される生徒の育成」の具体的な取組としてのボランティア清掃活動を今後も続けてもらいたい。生徒会と連携すると活性化すると感じた。学校、PTA、地域を巻き込んだあいさつ運動にしていくべきだと感じている。そのための伝え方を今後検討していく必要がある。学校と地域、そして各家庭が一体となって取り組まなければステップアップは厳しいと捉えている。このコミュニティスクールを活用し、ステップアップさせていきたい。	・教育方針や教育内容の周知による地域、保護者からの信頼確保	①コミュニティ・スクールについて、様々な方法により周知を図る。 ②地域、保護者が来校する機会に、可能な限り生徒の様子を参観いただくとともに、教育方針や現状について説明し、理解を求め、信頼確保に努める。	①複数の方法により、コミュニティ・スクールについての周知を図ることができたか。 ②学期に1回以上は、保護者等への授業参観を実施し、行事についても可能な限り公開することができたか。	①ホームページや学校だより、「コミュニティ・スクール報告」を通して、熟議や活動の内容を教職員・地域・保護者に伝えることができた。 ②学期に1回以上、時間差形式や分散形式等、工夫をしながら授業参観を実施することができた。全校開催した体育祭や合唱コンクール、文化発表会等では、地域・保護者へ広く生徒の活動を公開することができた。	A	①3年目を迎えるコミュニティ・スクールにおいて、活動内容の一層の周知を図り、さらに充実した取組を実施していく。	4	(現状) ○教職員の世代交代が急速に進む中、特に、若手教職員に対する育成を積極的に進めている。 ○教職員事故を未然に防ぐため、定期的な研修会を行い、意識を高めている。また、事故に関する報告・連絡・相談・見届けに努めている。 (課題) ○ICTの活用頻度については、個人差があるため、個々の積極的な意識向上が必要である。 ○他校の教職員事故を他山の石として捉え、教育公務員としての自覚を一層高めることが重要である。	・年齢や経験年数による適切な評価	①市教委の年次研修や各種研修会、校内研修会や校務分掌の確実な執行により教職員としての資質を高める。 ②全ての教職員が、「アクティブ・ラーニング型授業」の実現に向け、日常的にICT機器を活用する。	①確実に研修を受け、その成果を日常の業務に効果的に生かすことができているか。 ②生徒一人一台のタブレットパソコンを活用した研究授業や公開授業を全ての教職員が実施できたか。	①市教委主催の研修および校内研修においては確実に受講させた。また研修で受講した内容について校内研修を通して教職員に伝達することができた。 ②プロジェクターシートを全教室に設置した。公開研究授業や市教委指導訪問では全教職員がICTを活用した授業を実施した。「よい授業」アンケート設問3では市の平均値を上回ることができた(0.7増)	B	①年次研修において身に付けたスキルを日常の業務に効果的に生かすための意識改革が必要である。 ②デジタルゼーション、デジタルゼーションにとどまっている現状である。教育DXが必要である。	教員の資質向上=授業力⇒教材研究に力を注ぐことの大切さを若い教員に寄り添いながら実行できるとういと感じる。様々な教員研修に取り組んでいて素晴らしい。また、引き続き、学校の柱である「凡事一流」を目指すべく生徒へ指導を継続していくべきだと感じる。学校中心ではあるが、地域の力をもっと上手に使うべきだと感じる。	・教職員事故防止に向けての校内研修の充実	①市教委のテキストを活用し、定期的に教職員事故防止に向けての校内研修を実施するとともに、必要に応じて管理職からの指導・助言を行う。 ②市教委からの通知や他校での事故情報を踏まえ、臨時的研修会や管理職からの指導・助言を行う。	①各学期において、教職員事故防止に向けた校内研修を確実に実施することができたか。 ②校内研修の実施方法を工夫し、効果的な研修会とすることができたか。
2	(現状) ○市の学習状況調査で、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、90.2%と市平均(91.7%)を若干下回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合が原因と考えられる生徒のけがは11件、授業中や休み時間におけるけがは250件発生し、医療機関を受診したものは37件で、救急搬送は1件であった。 (課題) ○新型コロナウイルスによる影響もあり、昨年度の不登校生徒数は40人であった。生徒が安心して登校できる環境づくりが必要である。 ○教職員による毎月の安全点検は適切に行われているが、施設・設備の老朽化もあり、市教委との連携、予算の適切な運用により、常に安全な教育環境を整える。	・積極的な生徒指導による生徒一人ひとりへの適切な指導が行える校内体制の充実	①生徒指導委員会及び教育相談部会をそれぞれ毎週1回開催し、生徒指導上の課題や配慮すべき生徒についての情報共有を行う。また、その対応策を検討し、適宜対策を実施する。 ②心と生活のアンケートを実施し、各学年からの報告を受け、全校生徒一人ひとりの心と生活の状況を把握し、今後の指導方針について専門家からの意見も参考にしながら検討する。	①各種委員会の定期的な開催ができた。また、生徒指導上の課題を適切に処理し解消し解けることができた。さらに、不登校生徒数を減少させる努力が効果的になされたか。 ②心と生活のアンケートにおいて、要面談生徒の数が、前回と比較し減少しているか。また、設問3やいじめに係る間に回答する生徒数が減少したか。	①各種委員会の定期的な開催により、生徒指導上の課題も適切に処理し解消することができた。(いじめ認知件数7、解消件数5) また、不登校生徒を減少させるための具体的な方策(別室対応:SoLaルーム、放課後登校対応、オンライン授業対応)をとることができた。 ②要面談生徒数、設問3やいじめに係る間に回答する生徒数は減少した。(要面談生徒1回目より2回目は16名1.1%減少、設問3は5名0.4%減少、いじめに係る回答は5名0.4%減少) また個々のケースに応じた適切な対応をすることもできた。	B	①教育相談に関する課題に対して組織的な対応が必要不可欠であるため、教育相談部会を中心に個々のケースの具体的な対応策を検討することが求められる。 ②減少したものの全生徒の12%は要面談生徒であるため、迅速かつ適切に対応していくとともに生徒一人ひとりに寄り添う指導を行うため面談時間の確保が重要である。	一人の優秀な子を輩出するよりも一人でも多くの苦しんでいる子を救うためにも、今以上に生徒、保護者とコミュニケーションを取りながら積極的な生徒指導を進めてもらいたい。生徒指導、教育相談共通的に行われていると感じた。それも、生徒と教職員の関係が良いからだと感じた。安心、安全な学校生活としては十分だと思います。しかし、施設、設備等の老朽化があり、今以上に子どもたちが安心、安全な環境で生活できるように市に要望していく必要があると感じた。																																										
		・施設・設備の修繕等による安全な教育環境の確保	①校内におけるけがの発生場所や原因について分析し、再発防止に向け予防策を講じる。 ②教職員だけでなく、生徒にも安全についての意識を高めるため、授業や委員会活動を活用する。	①安全担当が中心となり、管理職や事務職も加わり、施設・設備の状況把握をし、適切な予算運用のもと修繕が行われたか。 ②安心安全な学校生活のために、生徒も参加した活動が実施されたか。	①施設・設備の状況を把握し、適切な予算運用のもと修繕することができた。管理職、事務職が市教委と連携を図り修繕が終了した箇所は5件となった。 ②保護者・地域とともに活動する清掃活動へ積極的に生徒を参加させることができた。(保護者100名、生徒270名)	B	①安全点検で挙がる軽微なものについては、安全担当が中心となり積極的に修繕を行っていく必要がある。 ②①同様に安全担当が中心となって生徒自らが安心安全な学校生活を築き上げていく活動を実施していく。		3	(現状) ○学校運営協議会において、コミュニティ・スクールの目標を「地域に愛される子どもの育成」とし、それを柱に地域全体で協力していくことを確認、実行しているところである。 ○学校だよりや学校ホームページを活用し、本校の教育方針や教育活動の様子を地域、保護者に周知するよう努めている。 (課題) ○コミュニティ・スクールについて、改めて地域、保護者にその目的や内容を周知し、理解と協力を求める。 ○「地域に愛される生徒の育成」というコミュニティ・スクールの目標を地域、保護者にも浸透させ、それぞれの立場で何ができるか共通認識を持って考え、実行する。	・目指す生徒像を地域、保護者に浸透させることによる協力支援体制の充実	①ホームページを活用し、学校運営協議会の情報や夢チャレンジスクール宮原をはじめとするSSN(スクールサポートネットワーク)についての内容を発信することにより、目指す生徒像を地域に周知する。 ②目指す生徒像にある「あいさつ」について、保護者、地域に協力を得て、「あいさつ運動期間」を継続する。	①学期に1回以上、ホームページの改訂を行い、学校に係る情報提供を行うことができた。また、保護者アンケートの「教育方針をわかりやすく伝えていく」について、肯定的意見が90%を上回ったか。 ②「あいさつ運動期間」を適切に設けることができたか。	①毎学期1回以上、ホームページの改訂を行った。教育方針については、必要に応じて適宜、安心メールを発信したり、学校だよりに毎月載せたりしたが、保護者アンケートにおいて肯定的な評価が90%に達することができなかった。(84%) ②「あいさつ運動」では、地域・保護者の協力の下、各学期に3日間ずつ、実施することができた。生徒参加は、計24名と増加した。	B	①ホームページのフォーマットが市で統一されたことを受け、掲載する内容を今後さらに工夫改善していく必要がある。エバンジェリストを中心に計画的に取り組んでいく。 ②回数、日程等を含め、参加者(保護者以外に教職員、地域の方、生徒の参加)等、実施の形を学校運営協議会で検討していく必要がある。	「地域に愛される生徒の育成」の具体的な取組としてのボランティア清掃活動を今後も続けてもらいたい。生徒会と連携すると活性化すると感じた。学校、PTA、地域を巻き込んだあいさつ運動にしていくべきだと感じている。そのための伝え方を今後検討していく必要がある。学校と地域、そして各家庭が一体となって取り組まなければステップアップは厳しいと捉えている。このコミュニティスクールを活用し、ステップアップさせていきたい。	・教育方針や教育内容の周知による地域、保護者からの信頼確保	①コミュニティ・スクールについて、様々な方法により周知を図る。 ②地域、保護者が来校する機会に、可能な限り生徒の様子を参観いただくとともに、教育方針や現状について説明し、理解を求め、信頼確保に努める。	①複数の方法により、コミュニティ・スクールについての周知を図ることができたか。 ②学期に1回以上は、保護者等への授業参観を実施し、行事についても可能な限り公開することができたか。	①ホームページや学校だより、「コミュニティ・スクール報告」を通して、熟議や活動の内容を教職員・地域・保護者に伝えることができた。 ②学期に1回以上、時間差形式や分散形式等、工夫をしながら授業参観を実施することができた。全校開催した体育祭や合唱コンクール、文化発表会等では、地域・保護者へ広く生徒の活動を公開することができた。	A	①3年目を迎えるコミュニティ・スクールにおいて、活動内容の一層の周知を図り、さらに充実した取組を実施していく。	4	(現状) ○教職員の世代交代が急速に進む中、特に、若手教職員に対する育成を積極的に進めている。 ○教職員事故を未然に防ぐため、定期的な研修会を行い、意識を高めている。また、事故に関する報告・連絡・相談・見届けに努めている。 (課題) ○ICTの活用頻度については、個人差があるため、個々の積極的な意識向上が必要である。 ○他校の教職員事故を他山の石として捉え、教育公務員としての自覚を一層高めることが重要である。	・年齢や経験年数による適切な評価	①市教委の年次研修や各種研修会、校内研修会や校務分掌の確実な執行により教職員としての資質を高める。 ②全ての教職員が、「アクティブ・ラーニング型授業」の実現に向け、日常的にICT機器を活用する。	①確実に研修を受け、その成果を日常の業務に効果的に生かすことができているか。 ②生徒一人一台のタブレットパソコンを活用した研究授業や公開授業を全ての教職員が実施できたか。	①市教委主催の研修および校内研修においては確実に受講させた。また研修で受講した内容について校内研修を通して教職員に伝達することができた。 ②プロジェクターシートを全教室に設置した。公開研究授業や市教委指導訪問では全教職員がICTを活用した授業を実施した。「よい授業」アンケート設問3では市の平均値を上回ることができた(0.7増)	B	①年次研修において身に付けたスキルを日常の業務に効果的に生かすための意識改革が必要である。 ②デジタルゼーション、デジタルゼーションにとどまっている現状である。教育DXが必要である。	教員の資質向上=授業力⇒教材研究に力を注ぐことの大切さを若い教員に寄り添いながら実行できるとういと感じる。様々な教員研修に取り組んでいて素晴らしい。また、引き続き、学校の柱である「凡事一流」を目指すべく生徒へ指導を継続していくべきだと感じる。学校中心ではあるが、地域の力をもっと上手に使うべきだと感じる。	・教職員事故防止に向けての校内研修の充実	①市教委のテキストを活用し、定期的に教職員事故防止に向けての校内研修を実施するとともに、必要に応じて管理職からの指導・助言を行う。 ②市教委からの通知や他校での事故情報を踏まえ、臨時的研修会や管理職からの指導・助言を行う。	①各学期において、教職員事故防止に向けた校内研修を確実に実施することができたか。 ②校内研修の実施方法を工夫し、効果的な研修会とすることができたか。	①教職員事故防止に向けた校内研修を各学期に1回(年3回)市教委のテキストを活用して計画的に実施することができた。 ②服務に関する校内研修では、管理職が主催し、方法を工夫(講義形式、ディスカッション形式、自己点検形式)して実施することができた。	A	①教職員の危機意識を高めるためにも常に最新の情報を収集し使用する資料等の刷新が必要である。 ②教職員事故を防ぐためには、今後も継続的、定期的、効果的な研修を実施していく必要がある。												
3	(現状) ○学校運営協議会において、コミュニティ・スクールの目標を「地域に愛される子どもの育成」とし、それを柱に地域全体で協力していくことを確認、実行しているところである。 ○学校だよりや学校ホームページを活用し、本校の教育方針や教育活動の様子を地域、保護者に周知するよう努めている。 (課題) ○コミュニティ・スクールについて、改めて地域、保護者にその目的や内容を周知し、理解と協力を求める。 ○「地域に愛される生徒の育成」というコミュニティ・スクールの目標を地域、保護者にも浸透させ、それぞれの立場で何ができるか共通認識を持って考え、実行する。	・目指す生徒像を地域、保護者に浸透させることによる協力支援体制の充実	①ホームページを活用し、学校運営協議会の情報や夢チャレンジスクール宮原をはじめとするSSN(スクールサポートネットワーク)についての内容を発信することにより、目指す生徒像を地域に周知する。 ②目指す生徒像にある「あいさつ」について、保護者、地域に協力を得て、「あいさつ運動期間」を継続する。	①学期に1回以上、ホームページの改訂を行い、学校に係る情報提供を行うことができた。また、保護者アンケートの「教育方針をわかりやすく伝えていく」について、肯定的意見が90%を上回ったか。 ②「あいさつ運動期間」を適切に設けることができたか。	①毎学期1回以上、ホームページの改訂を行った。教育方針については、必要に応じて適宜、安心メールを発信したり、学校だよりに毎月載せたりしたが、保護者アンケートにおいて肯定的な評価が90%に達することができなかった。(84%) ②「あいさつ運動」では、地域・保護者の協力の下、各学期に3日間ずつ、実施することができた。生徒参加は、計24名と増加した。	B	①ホームページのフォーマットが市で統一されたことを受け、掲載する内容を今後さらに工夫改善していく必要がある。エバンジェリストを中心に計画的に取り組んでいく。 ②回数、日程等を含め、参加者(保護者以外に教職員、地域の方、生徒の参加)等、実施の形を学校運営協議会で検討していく必要がある。	「地域に愛される生徒の育成」の具体的な取組としてのボランティア清掃活動を今後も続けてもらいたい。生徒会と連携すると活性化すると感じた。学校、PTA、地域を巻き込んだあいさつ運動にしていくべきだと感じている。そのための伝え方を今後検討していく必要がある。学校と地域、そして各家庭が一体となって取り組まなければステップアップは厳しいと捉えている。このコミュニティスクールを活用し、ステップアップさせていきたい。																																										
		・教育方針や教育内容の周知による地域、保護者からの信頼確保	①コミュニティ・スクールについて、様々な方法により周知を図る。 ②地域、保護者が来校する機会に、可能な限り生徒の様子を参観いただくとともに、教育方針や現状について説明し、理解を求め、信頼確保に努める。	①複数の方法により、コミュニティ・スクールについての周知を図ることができたか。 ②学期に1回以上は、保護者等への授業参観を実施し、行事についても可能な限り公開することができたか。	①ホームページや学校だより、「コミュニティ・スクール報告」を通して、熟議や活動の内容を教職員・地域・保護者に伝えることができた。 ②学期に1回以上、時間差形式や分散形式等、工夫をしながら授業参観を実施することができた。全校開催した体育祭や合唱コンクール、文化発表会等では、地域・保護者へ広く生徒の活動を公開することができた。	A	①3年目を迎えるコミュニティ・スクールにおいて、活動内容の一層の周知を図り、さらに充実した取組を実施していく。		4	(現状) ○教職員の世代交代が急速に進む中、特に、若手教職員に対する育成を積極的に進めている。 ○教職員事故を未然に防ぐため、定期的な研修会を行い、意識を高めている。また、事故に関する報告・連絡・相談・見届けに努めている。 (課題) ○ICTの活用頻度については、個人差があるため、個々の積極的な意識向上が必要である。 ○他校の教職員事故を他山の石として捉え、教育公務員としての自覚を一層高めることが重要である。	・年齢や経験年数による適切な評価	①市教委の年次研修や各種研修会、校内研修会や校務分掌の確実な執行により教職員としての資質を高める。 ②全ての教職員が、「アクティブ・ラーニング型授業」の実現に向け、日常的にICT機器を活用する。	①確実に研修を受け、その成果を日常の業務に効果的に生かすことができているか。 ②生徒一人一台のタブレットパソコンを活用した研究授業や公開授業を全ての教職員が実施できたか。	①市教委主催の研修および校内研修においては確実に受講させた。また研修で受講した内容について校内研修を通して教職員に伝達することができた。 ②プロジェクターシートを全教室に設置した。公開研究授業や市教委指導訪問では全教職員がICTを活用した授業を実施した。「よい授業」アンケート設問3では市の平均値を上回ることができた(0.7増)	B	①年次研修において身に付けたスキルを日常の業務に効果的に生かすための意識改革が必要である。 ②デジタルゼーション、デジタルゼーションにとどまっている現状である。教育DXが必要である。	教員の資質向上=授業力⇒教材研究に力を注ぐことの大切さを若い教員に寄り添いながら実行できるとういと感じる。様々な教員研修に取り組んでいて素晴らしい。また、引き続き、学校の柱である「凡事一流」を目指すべく生徒へ指導を継続していくべきだと感じる。学校中心ではあるが、地域の力をもっと上手に使うべきだと感じる。	・教職員事故防止に向けての校内研修の充実	①市教委のテキストを活用し、定期的に教職員事故防止に向けての校内研修を実施するとともに、必要に応じて管理職からの指導・助言を行う。 ②市教委からの通知や他校での事故情報を踏まえ、臨時的研修会や管理職からの指導・助言を行う。	①各学期において、教職員事故防止に向けた校内研修を確実に実施することができたか。 ②校内研修の実施方法を工夫し、効果的な研修会とすることができたか。	①教職員事故防止に向けた校内研修を各学期に1回(年3回)市教委のテキストを活用して計画的に実施することができた。 ②服務に関する校内研修では、管理職が主催し、方法を工夫(講義形式、ディスカッション形式、自己点検形式)して実施することができた。	A	①教職員の危機意識を高めるためにも常に最新の情報を収集し使用する資料等の刷新が必要である。 ②教職員事故を防ぐためには、今後も継続的、定期的、効果的な研修を実施していく必要がある。																											
4	(現状) ○教職員の世代交代が急速に進む中、特に、若手教職員に対する育成を積極的に進めている。 ○教職員事故を未然に防ぐため、定期的な研修会を行い、意識を高めている。また、事故に関する報告・連絡・相談・見届けに努めている。 (課題) ○ICTの活用頻度については、個人差があるため、個々の積極的な意識向上が必要である。 ○他校の教職員事故を他山の石として捉え、教育公務員としての自覚を一層高めることが重要である。	・年齢や経験年数による適切な評価	①市教委の年次研修や各種研修会、校内研修会や校務分掌の確実な執行により教職員としての資質を高める。 ②全ての教職員が、「アクティブ・ラーニング型授業」の実現に向け、日常的にICT機器を活用する。	①確実に研修を受け、その成果を日常の業務に効果的に生かすことができているか。 ②生徒一人一台のタブレットパソコンを活用した研究授業や公開授業を全ての教職員が実施できたか。	①市教委主催の研修および校内研修においては確実に受講させた。また研修で受講した内容について校内研修を通して教職員に伝達することができた。 ②プロジェクターシートを全教室に設置した。公開研究授業や市教委指導訪問では全教職員がICTを活用した授業を実施した。「よい授業」アンケート設問3では市の平均値を上回ることができた(0.7増)	B	①年次研修において身に付けたスキルを日常の業務に効果的に生かすための意識改革が必要である。 ②デジタルゼーション、デジタルゼーションにとどまっている現状である。教育DXが必要である。	教員の資質向上=授業力⇒教材研究に力を注ぐことの大切さを若い教員に寄り添いながら実行できるとういと感じる。様々な教員研修に取り組んでいて素晴らしい。また、引き続き、学校の柱である「凡事一流」を目指すべく生徒へ指導を継続していくべきだと感じる。学校中心ではあるが、地域の力をもっと上手に使うべきだと感じる。																																										
		・教職員事故防止に向けての校内研修の充実	①市教委のテキストを活用し、定期的に教職員事故防止に向けての校内研修を実施するとともに、必要に応じて管理職からの指導・助言を行う。 ②市教委からの通知や他校での事故情報を踏まえ、臨時的研修会や管理職からの指導・助言を行う。	①各学期において、教職員事故防止に向けた校内研修を確実に実施することができたか。 ②校内研修の実施方法を工夫し、効果的な研修会とすることができたか。	①教職員事故防止に向けた校内研修を各学期に1回(年3回)市教委のテキストを活用して計画的に実施することができた。 ②服務に関する校内研修では、管理職が主催し、方法を工夫(講義形式、ディスカッション形式、自己点検形式)して実施することができた。	A	①教職員の危機意識を高めるためにも常に最新の情報を収集し使用する資料等の刷新が必要である。 ②教職員事故を防ぐためには、今後も継続的、定期的、効果的な研修を実施していく必要がある。																																											

